



たちばなだより

令和6年7月19日
第5号 🍌
名古屋市立橋小学校

🍌 学校努力点「よく考えて、主体的に学ぶ橘っ子」について 🍌

「たちばなだより5月24日号」にてお知らせしました、「ナゴヤ学びのコンパス」の基本的な考え方を基にした本校の学校努力点授業について、「子ども中心の学び」を重視した1学期の実践を2つ紹介します。

6年桜組の実践（社会科）



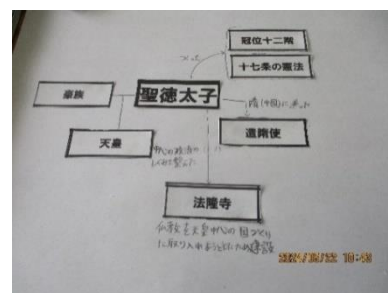
「天皇中心の国づくり」の6時間目（6時間完了）

聖徳太子の国づくりについて人物や事象、文化等について学習（1～5時間目）をした後、まとめの時間（6時間目）として「聖徳太子がめざした政治の仕組みは、聖徳太子の死後、どのようになっていくのでしょうか」という学習問題に対して、子どもたち一人一人がキーワードマッピングを作成する活動を通して、結論を出す学習をしました。



＜キーワードマッピングを作成する様子＞

まず、子どもたちは学習の見通しをもち、次に、自分なりの結論を出すために、必要な情報を主体的に集める（教科書や資料集・インターネット・図書資料などで調べる）ことができていました。また、自らが自分に合った学習方法（個人での取り組み・友達と協力しての取り組み）を選択することができていました。この授業のように、どの教科・どの場面でも「夢中で探求する」子どもたちの姿が見られるように、教師がよき伴走者となれる学びのアップデートを目指していきます。



＜作成されたキーワードマッピング＞

3年桜組の実践（算数科）



「わり算」の8時間目（10時間完了）

一斉授業にて「1人分の数を求める計算」「分けられる人数を求める計算」「2つの分け方」を学習（1～5時間目）した後、子どもが自分のペースで行う自由進度学習（6～10時間目）として「わり算とかけ算を組み合わせた問題」「答えが九九にないわり算」「学びのまとめ」を行いました。



＜サークルで見方・考え方を共有＞

この実践（8時間目）は「何十や0をわる、答えが九九にないわり算の計算の仕方を、わり算がかけ算の逆演算であることをもとに考え説明すること」を目標として、自分に合ったペースや方法（教師によるミニレッスン・個人での取り組み・友達との協働的な取り組み）で学びました。子どもたちは、筋道を立てて考えながら学習を進める姿や自分の能力や進度、興味・関心に応じて問題を選択する姿が見られました。自らが計画を立て学習を進めることで、自ら学ぶ力が高まりつつあります。



＜協働的に進んで学ぶ様子＞



＜ミニレッスンの様子＞

しかし、学習内容を理解するペースが個々に異なることもあるため、一斉授業と自由進度学習をうまく組み合わせることで、基礎的な内容を定着させることがとても重要であることも分かりました。

なお、「ナゴヤ学びのコンパス」に関わるQ&Aを「たちばなだより 努力点特別号（別紙）」に掲載しました。ご参照ください。



たちはなだより

努力点特別号

本校では、「ナゴヤ学びのコンパス」の基本的な考え方を基に「よく考えて、主体的に学ぶ橋っ子一教職員一人一人が主体となった学びのアップデート」を目指して日々、実践に取り組んでいます。



しかし、保護者の中には「学びのコンパス」で目指している「子ども中心の学び」について不安や疑問を抱えている方もいると思います。そこで学びのコンパスについて理解を深めていただくために、以下にQ&Aを掲載しました。ご参照ください。(ナゴヤ学びのコンパス冊子版から抜粋)



Q 子どもが中心となる学びは何がよいのでしょうか。

A 子どもは自ら学ぶ力をもっています。それを引き出すような環境を設定し、子どもの学びに大人が伴走することで子どもたちは夢中になり、学ぶ必要性を感じれば、いくつになっても自立して学び続ける人に成長することができると思っています。

Q 学ぶ内容が変わるのですか。

A 学ぶ内容はこれまでと変わりません。学ぶ方法や環境のあり方について、教師が子どもと対話しながら、子どもが自己選択・自己決定できるように取り組んでいきます。

Q 子どもの自立した学びを大切にすることで学習内容が終わらないことはありませんか。

A 講義型の一斉授業では、教師が決めたペースに合わせて全員が同じ進度で学習をするため、学習者に自由度がなく、実学習時間を確保することが難しいこともあります。単元内自由進度のような自律した学びでは、学習者が自分自身のペースや方法で学習することができるため、十分な実学習時間を確保することができるという研究結果もあります。子どもの自律した学びだから学習内容が終わらないということはありません。教師が子ども一人一人の学習状況を丁寧に見取り、子どもの学びに教師が伴走したり、意図的に子どもたちが学び合う場を設定したりするなどの適切な環境設定を行えば、学習内容は決められた時間内に終わります。

Q 自律して学ぶということは、教師が教えないということですか。

A 教師が何から何まで指示し、教師の思い通りに行動できるようにするような指導は少なくなります。とはいえ、教師が教えなくなるというということではありません。子どもたちの学びに伴走し、子どもの学習状況を見取りながら適切な声掛けや支援・指導を行います。自分で考えたり、子ども同士で学び合ったりすることを促すことがよい場面もあれば、教師が教えることがよい場面もあります。教師が子どもに寄り添いながら、適切に判断することが求められるのは今もこれからも変わりません。

Q すべてを子どもに任せるのですか。

A できるだけ多くの子どもに任せ、自律して学ぶことができるよういしていきたくと考えています。しかし、教師が責任をもって行うべきことはあります。教師が事前に何を学ばせるのか、何を学ぶのか見定め発展的・補充的なプリントを準備する等の必要があります。また自律して学ぶことができる環境設定は必要ですし、子どもたちの理解度や困り感等を見取り、適切に支援することが求められます。自律した学びが成功するかどうかは、教師がいかに事前の教材研究や教材の準備、学びたくなるような導入の設定等を充実させるかにかかっています。

Q 自分に合った学び方ばかり取り組んでいて、子どもが苦手なことから逃げるようになってしまいましたか。

A 自分の得意なことや好きなことに自信がある人は、苦手なことにも自分なりにチャレンジする人が多くなります。まずは好きなことや得意なことを伸ばし、自信をもつことで「苦手なことだけど、チャレンジしてみようかな」と思える子に育つと考えます。ただ、全てを子どもに任せてしまえば、チャレンジしない子もできてくることもありますので、子どもが安心して失敗し、そこから学んでいくことができるように、教師の声掛けや支援、環境の設定を行う必要があります。

もっと詳しく知りたい方は、QRコードから「ナゴヤ学びのコンパス」のページに掲載されている冊子版をご覧ください。



6月24日（月）に4年梅組で努力点研究授業を行いました。自分が作った短歌を友達に紹介し合い、話し合うことで短歌をレベルアップさせることを目標として学習に取り組みました。

左図1の「サークル対話」では、短歌のポイントを確認したりこれまでの学習の振り返りをしたりすることでめあてを共有することができました。

左図2の「グループ編製の工夫」では、協働的な学びにつながるグループ編成し、付箋を用いて様々な考えを交流することができました。

子どもたちは自分で新たに見直したり、友達のアドバイスを取り入れたりして短歌を再構成し、よりよい短歌を作り上げることができました。



【図1 サークル対話】



【図2 グループ編製の工夫】